

2024年「重点指導事項」

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

日本の野球界において、野球競技者数の減少が止まらず、野球人気の低下や若者の野球離れが深刻化しています。またニューススポーツと呼ばれる新たなスポーツに、多くの若者が興味・関心を持ち始めているのも確かなことです。

あるラジオ番組で、昨年のWBCで優勝された日本代表チームの栗山英樹前監督が、長嶋茂雄さんから「高校野球を護れ。日本の野球のベースは高校野球で出来ているから、今の環境さえしっかり護っていれば、野球の環境はある程度護れる」と言われた、というエピソードを語っておられました。「野球という競技が、投げて打って走って得点を奪い合う、爽快でスリリングなスポーツである」という原点に立ち返り、選手・指導者、連盟の先生方、審判委員が協力しながら、高校野球を次の世代に繋ぎ、護っていきたく、本年度は、95回選抜大会・105回選手権大会の振り返りから、以下の項目を「重点指導事項」と致します。

1. マナーについて

- (1) 投手が投球動作に入った際の、両チームのベンチ・グラウンド上の選手他の発声
(プレイ上必要な場合は除く)
- (2) プレイに合わせた選手・ベースコーチ等の「セーフ」「アウト」の発声やジェスチャー
- (3) 勝利チームの校歌斉唱が終わったあと、相手チームに改めて「礼」をする行為

2. プレイ上について

- (1) 捕手がキャッチャースボックスから大きく身体を出して構える行為
- (2) バッテリー間及び投手と野手との長いサイン交換【5.07(c)(1)(2)の励行】
- (3) 塁に走者が出たとき、投手がボールを長持ちする行為
- (4) 不要なけん制(軸足を外すだけの行為含む)を多投する行為
- (5) 走者の前に野手が立ち、視界を遮るアンフェアな行為
- (6) スムーズな攻守交替

3. その他

- (1) ユニフォームの着方について
 - ①帽子(頭に浅く乗せているような被り方・投球の度に脱げる投手)
 - ②上着(ベルトが見えずだぶついている)
 - ③ストッキング(ズボンの上に被せる着用)
 - ④ズボン(ストッキングの見え方が不揃い)
- (2) グラブやミットの締め紐が長く、結ばれていないケース

以上